

指導の重点

(1)各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

- 学力調査・新体力テストの結果を指導計画や評価計画及び授業改善推進プランに活用して授業改善を推進するとともに、研修機会の充実に努め指導力の向上を図る。
- 一部教科担任制や、少人数指導の授業、学力向上支援講師とのチームティーチング、地域の教育力を活用した学習など指導体制を工夫する。
- 豊かに気づき・よく考え・自ら行動する児童の育成を目指し、主体的な学習活動を工夫する。

イ 道徳

- 道徳の時間を要とした全教育活動を通じて、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を培い、生命を尊重する心や思いやりの心をもって行動できる児童を育てる。
- 道徳教育推進教師を中心に、道徳授業地区公開講座の充実に努めるとともに、地域の人材を活用した道徳の時間を通して、自己の生き方の基盤となる道徳的価値観の形成を図る指導を徹底し、道徳的心情や判断力を養い、実践力を育てる。

ウ 外国語活動

- 第5・6学年で35時間外国語活動を実施し、言語や文化について体験的に理解を深め、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。
- 外国語を通じて、異文化への興味関心を高め、国際社会に生きる日本人を育成する。

エ 総合的な学習の時間

- 国際理解や情報、環境、福祉・健康等の課題についての学習を通して、自ら学び自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
- 自然体験や社会体験、生産などの体験活動や、表現活動、他者との協同活動を通して、学び方やものの見方・考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を育てる。

オ 特別活動

- 学級活動、児童会活動、全校・学年遠足等の学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。